

尾張南支部

施設見学会

- ・日 時：2月14日（金）午前9時30分
- ・見学先
CEPO半田バイオマス発電所
（半田市日東町4番地の1）
フルハシEPO株式会社 愛知第七工場（半田）
（半田市日東町4番53）
- ・参加者：15名

当日はアイプラザ半田（半田市東洋町）に参加者が集合し、バスにて見学先に向かいました。

「CEPO半田バイオマス発電所」は、中部電力グループの「総合エネルギーサービス企業」である（株）シーエナジーと、中部地区で有数の木質廃棄物リサイクル事業を営むフルハシEPO（株）の共同出資により創設されました。

発電能力：5万kW（発電端）
年間発電電力量：一般家庭約12万世帯分
運転開始：2019年10月
敷地面積：約32,000㎡
使用燃料：木質リサイクルチップ
パーム椰子殻（PKS）
年間CO₂削減効果：約15万t

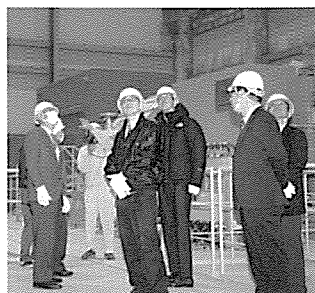


概要説明をする
岩崎部長

同施設に到着後会議室にて、（株）シーエナジー 再エネ・新規事業部 再エネ・新規事業課CEPO半田バイオマス発電所専任部長（第1種ボイラー・タービン主任技術者）岩崎孝一氏から同発電所の概要について話があり、紹介映像を見て説明を受けた後、



CEPO 半田バイオマス発電所視察の様子



同氏の案内で施設の見学を行いました。

燃料供給棟にある『中央制御室』は、発電所の状態を24時間監視し、安定した運転状況を維持しています。制御室の窓からは木質リサイクルチップ供給クレーン、PKS供給クレーンによる供給状況を確認することができました。『ボイラー』は自然循環式水管ボイラーで、異物に強いトラベリングストーカ炉を使っているとのこと。タービン棟の『蒸気タービン』は、抽気復水式蒸気タービンを使用しており、ボイラーで作り出された蒸気を回転エネルギーに変換しています。蒸気タービンで仕事をした蒸気は復水器で工業用水を媒体として冷却され、再度給水として使用されています。各設備を周り屋外に出て、発電所の外観についての説明を受けました。

その後、隣接するフルハシEPO（株）愛知第七工場（半田）内にて、搬入された廃棄物がどのように木質リサイクルチップとして再生されるのか、破碎されてコンベアにて運ばれる一連の工程を視察しました。操業は2019年4月稼働、木質バイオマス燃料の生産能力は年間3.6万tです。2つの施設を周り施設見学会は終了しました。



フルハシEPO（株）愛知第七工場（半田）